

子どもの世界を広げる 図書館活用法を考える



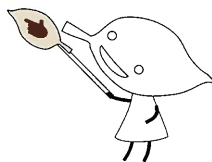
小田 光宏 [おだみつひろ]
(青山学院大学 コミュニティ人間科学部)

はじめに まじめに 自己紹介



共通理解

児童サービスにおける諸課題



『日本の図書館の歩み1993-2017』から

「児童青少年への図書館サービス」 (汐崎順子)

- 子ども、子どもをめぐる社会の状況：子どもの生活の変化と課題
- 読書離れ、学力低下の危惧と学校、学校図書館
- 子どもの読書活動を推進するさまざまな動き、取り組み
- 子ども、子どもの読書と図書館：児童青少年への図書館サービス
- 子どもと読書、図書館、児童サービス：確認と再定義、課題と展望



『年報こどもの図書館』から

- 2002年版「児童図書館奉仕の動向と分析」
 - 乳幼児サービス
 - 新たに始まった0歳児サービスの動き
 - ヤングアダルトサービス
 - 病院サービス
 - おはなし会
 - ブックトーク
 - 科学あそび
 - 施設
 - 学校との連携
 - アニメーション
 - 図書館利用に障害のある子どもへのサービス
 - 多文化サービス
 - 読み聞かせ



『年報こどもの図書館』から

- 2007年版「児童図書館奉仕の動向と今後」
 - 多様なサービス
 - 乳幼児サービス
 - 「読書の動機づけ指導」本好きの子どもを育てる
 - ヤングアダルト・サービスの現状と課題
 - 図書館利用に障害のある子どもへのサービス
 - 多文化サービス
 - 病院での小児図書館サービス
 - 子どもに本を手渡すために
 - 読み聞かせ
 - おはなし
 - ブックトーク
 - 科学あそび
 - 読書へのアニメーション
 - 紙芝居
 - 著作権
 - 児童図書館施設の現状 (略)



『年報こどもの図書館』から

- 2012年版「児童図書館奉仕の動向と今後」
 - 児童サービス活動 (1)
 - 子どもと本を結びつける活動
 - 子どもと図書館と情報テクノロジー
 - アニメーション
 - 著作権
 - 児童サービス活動 (2)
 - 乳幼児サービス
 - ヤングアダルトサービス
 - 多文化サービス
 - 障害児サービス
 - 病院での小児図書館サービス



『年報こどもの図書館』から

- 2017年版「児童サービスの動向と現状、総論」
 - 選書
 - 乳幼児サービス
 - ブックスタート
 - ぬいぐるみおとまり会
 - 児童レファレンスサービスとパスファインダー (帯広市図書館の事例)
 - 病院での小児図書館サービス
 - 多文化サービス
 - 青少年向けサービスの実践 (日野市立図書館の事例)
 - ビブリオバトル
 - ソーシャルメディア等を活用した情報発信の取り組みを考える



『図書館年鑑』から

- ・ 「児童青少年への図書館サービス」
 - 2021年版（2020年概況）
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大の中の児童サービス
 - ・ 震災・災害と子どもの読書・図書館活動
 - ・ 障害のある子どもたちに向けた図書館活動
 - ・ 読書推進活動
 - ・ 子どもの本の出版・配信状況

※遡及部分は略



視点を 変えて



COVID-19への対策を経験して

- ・ 大丈夫だという知見もあるから..
 - 実態が未解明の段階の「安全策」は無謀か？
- ・ 図書館は静かなところだから..
 - 賑やかな図書館はあり得ないのか？
- ・ 人が集まる活動は拙いから..
 - 三密対策や換気を講じても止めるべきか？
- ・ 対面が無理ならばリモートでやればよいから..
 - 実施可能性と効用のバランスはどう維持するか？



統合的に考えて

- ・ 学校教育は「分析」の好例
 - 科目・・○○科△△目
 - 時間割
 - ※分析（アナリシス）と統合（シンセシス）の必要性
- ・ 図書館における業務の「分析」
 - 児童サービス・・象徴的活動としての読書支援
 - ※子どもの生活・行動・嗜好全般の俯瞰



可能性を目指して

- ・ 発想を広め、高め、深めるために
 - 禁止表現
 - ・ 「○○は、図書館の仕事（役割）ではない」
- ・ 子どものいる世界（社会）の変化に目を向けて
 - ものづくりとの接近
 - ・ メーカースペース
 - ・ ものづくりの知識の獲得（本の世界）から実践への接続
 - STEM教育, STEAM教育
 - ・ Science（科学）
 - ・ Technology（技術）
 - ・ Engineering（工学・ものづくり）
 - ・ Art（芸術・工芸・リベラルアーツ）
 - ・ Mathematics（数学）



究極の目的を意識して

- ・ 「その先は？」という問い
 - 本を読んでもらうことは、図書館にとっては目的かもしれない。しかし、子どもたちにとっては、単なる目的なのだろうか？
- ・ 「誰の願いか？」という問い
 - 子どもにとっての目的と、保護者にとっての目的、あるいは、地域社会にとっての目的とは一致するのだろうか？
- ・ 振り返り
 - 子どもたちの交流の場になることを目的にするならば、卓球できるスペースを用意してもよいような..
 - ・ 正解（●）はない世界



クイズ風に

「○○読」

○○に入る言葉を考えましょう。



クイズ ○○読

- ・ 「どく」と読む
 - 愛読, 朝読, 一読, 家読, 閲読, 音読, 会読, 回読, 解読, 可読, 完読, 既読, 訓読, 講読, 購読, 誤読, 再読, 雑読, 査読, 試読, 熟読, 触読, 晴耕雨読, 精読, 味読, 未読, 黙読, 訳読, 乱読, 輪読, 朗読
- ・ 「よみ」と読む
 - 異読み, 音読み, ぎなた読み（弁慶読み）, 訓読み, 重箱読み, 素読み, 試し読み, 朝毎読, 流し読み, 票読み, 拾い読み, 坊主読み, 棒読み, 本読み, 回し読み, 湯桶読み, 理科読み
- ・ 「とう」と読む
 - 句読



「読む」に関する疑問

- これって読書？
 - 新聞を読むことは？
 - 詩集を読むことは？
 - 画集を読むことは？
 - 漫画を読むことは？
 - 絵本を読むことは？
- これって読書活動？
 - アニメーションは読書活動？
 - ブックスタートは読書活動？
 - ビブリオバトルは読書活動？
 - ビブリオセラピーは読書活動？



音読と黙読・・・ヒントにならないか？

- どちらが古い？
 - 日本の寺子屋， 西欧での学びの風景

【参考】大谷卓史，黙読習慣と個人主義，情報管理，55巻6号，2012.
- 本以前の情報伝達
 - 語り部
 - 吟遊詩人
- 人々の交流の方法
 - 映画に登場する場面
 - ・ 読書会（読書クラブ）・朗読会
- 読み聞かせからの脱皮
 - 読みあい

※村中李衣氏の提唱・実践



「調べる」を調べる

あるいは「読む」からの始まり



「調べる」を考える前に

春になったら山菜摘みにでかけます。たくさん採れたら、今日の夕飯は天ぷらです。

あ、タラの芽があります。こっちには、フキノトウです。天ぷらにするには、もう少し違う種類があるといいですね。

あった。小川の淵のあたりにワラビが…。向こう岸にもありますね。カゴ一杯になってきました。

おっと、来た道を忘れそう。パンのかけらを落として、道しるべにしましょう！ [笑]

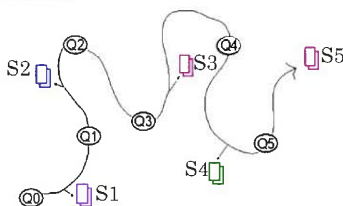
これだけでも十分ですが、ゼンマイがあればおひたしができます。どこかにないかなあ。



図書館情報学での理屈

情報ニーズ (Q) に基づいて、情報源 (S) を探します。得られた情報により、情報ニーズが変化して新たな情報ニーズとなります。新たな情報ニーズに基づいて、別の情報源を探します。得られた情報により… (以下、同様)

※ベリーピッキングモデル (berry-picking model)



調べる手法と読む

偶発の発見を期待して、本や雑誌をめくりながら記事を求めたり、書棚で本の背を眺めて探したりすることを、ブラウジングと言います。

特定の情報を探そうと、本や雑誌をはじから眺めることを、スキヤニングと呼びます。

本や雑誌の記事に掲載されている参考文献リストから、関係する他の資料を確認して入手することを、チェイニングとよびます。インターネット上のリンク機能と重なります。



メディアの特性と「調べる」

辞書で言葉の意味を調べるとします。現代では、昔ながらの紙 (冊子) の辞書を使うだけでなく、電子辞書を使うこともできます。インターネット上に掲載されている辞書サイトを用いることも可能です。これらは、どのような違いがあるのでしょうか。

考えるときのキーワードは
セレンディピティ
です。



レファレンスブックの「調べる」

紙の辞書は、レファレンスブック (参考図書) と呼ばれる本の一つです。レファレンスブックには、他に事典、ハンドブック、図鑑、年表、地図帳などがあります。

このように挙げると、レファレンスブックは調べるための本、調べものの本、と意識されます。しかし、これだと、使い方にはばかり目が向いてしまいます。作り方に注目すると、どうでしょうか。

考えるときのキーワードは
参照 と 通読 (通覧)
です。



「調べる」に資する分類法

図書館の本は、『日本十進分類法』(NDC)という分類体系により分けられて、書棚に並べられています。本を書棚に並べるためのもの(書架分類)なので、1冊の本には、一つのカテゴリ番号しか割り当てられません。本は「もの」だからです。

NDCでは、その本が扱っている「主題(内容、領域)」に応じて区分しています(主題分類)。そして、アラビア数字による十進法を用いており(十進記号分類)、基本は3桁です。



隣の本を「調べる」と

例えば、6類は、「産業」で、次のように並んでいます。空欄には、何が入りそうでしょうか。

- 61 (農業)
- 62 (園芸)
- 63 ()
- 64 (畜産業)
- 65 ()
- 66 (水産業)
- 67 (商業)
- 68 (運輸、交通)
- 69 ()



図書館活用法としての「調べ学習」

「調べ学習」という言葉を耳にすることがあります。小学校で行われているので、基本的な学びのはずですが、実は、けっこう誤解があります。

「答えを探し出す学習」「調べる技法を身に付ける学習」のことだと思ってしまう方もいるようです。しかし、これらは学習プロセスの一部に過ぎず、学習の目的ではありません。

「調べ学習」は、あるテーマについて疑問に思うことを見つけて、答えにつながる情報を探し出し、調べた情報をもとに考える学習です。

この学習で大切なのは、何でしょうか。



『図書館図鑑』の監修を通して

- 「調べ学習」の取り上げ方
 - 「問い」の重視
- 「調べ学習」で設定する課題
 - 答えが資料から出てくる課題
 - 資料をもとに答えを考える課題
- 「問い」と「答え」の関係
 - 答えが一つではない問い
 - 答えがない問い



「図書館実践シリーズ」を眺めて

- 学習活動への貢献
 - 『情報リテラシー教育の実践』(2010)
 - 「調べ学習」による情報活用能力の形成
 - クリティカルシンキング(批判的思考)の育成
 - 『れふあれんす百題話』(2020)
 - レファレンスサービスにおける「調べ学習」の促進
 - 『地域資料サービスの展開』(2021)
 - 地域理解のための「調べ学習」
 - 地域アーカイブ形成によるDXとの接続
 - ウィキペディアタウン等による地域資料・情報の形成



ヒントは
ここかしこに

「図書館実践シリーズ」を眺めて

- 発展型の図書館サービス
 - 『図書館とゲーム』(2018)
 - ゲームを介した(通した)交流促進
 - 『図書館多読のすすめかた』(2019)
 - 言語(英語)学習への貢献
 - 『子ども司書のすすめ』(2021)
 - 体験の場としての図書館



「図書館実践シリーズ」を眺めて

- 子どもの視点の導入
 - 『手づくり紙芝居講座』(2009)
 - 図書館資料の作成(創造的活動への展開)
 - 『サインはもっと自由につくる』(2017)
 - 子どもの視点による案内
 - 『〈本の世界〉の見せ方』(2017)
 - 利用者志向の排架・分類
 - 『司書が書く』(2021)
 - 子どもも「書く」(利用者による資料紹介)
 - ビブリオバトル(書評合戦)との接続



Current Awarenessの事例の例（1）

- 絵本の宅配便がもたらしたもの
- 豊橋鉄道，路面電車の車内で絵本の読み聞かせを行う「おはなしでん」を運行
- 橿原市立図書館（奈良県），市内の小学生以下の子どもがいる世帯を対象に貸切利用サービスを実施
- 札幌市中央図書館，出版社の協力を得て絵本の読み聞かせ動画を作成
- 佐倉市立白井公民館図書室（千葉県），公園と図書館がコラボした本活イベント「BOOK&PARK」を開催



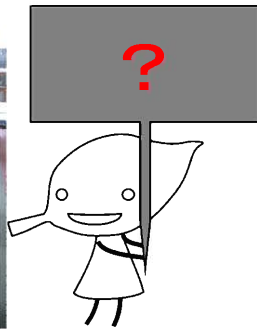
Current Awarenessの事例の例（2）

- 名古屋市千種図書館，読書と種まき体験「おはなししょくぶつえん～たねのおはなし～」を開催：東山動植物園との共催
- 宇治市図書館（京都府），「夏休み！ぬいぐるみの図書館おとまり会～新しい生活様式編～」や，3密を避けるために読み聞かせをマンツーマンで行なう「夏休みひとりじめおはなし会」を開催

※以下，いろいろ



質問がある場合



ありがとうございました

